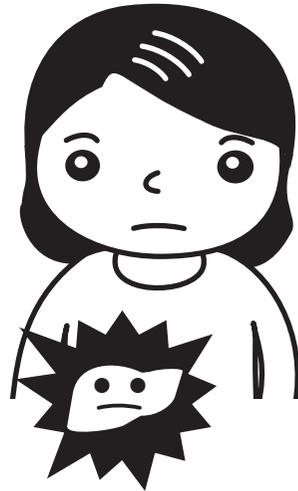


ウイルス性肝炎

▶▶ B型

▶▶ C型



肝臓の主な働き

肝臓は人体で一番大きい臓器で、500を超える重要な機能を持っています。

かなめ
肝臓は要

- 栄養分の生成・貯蔵・代謝
- 血液中のホルモン・薬物・毒物の代謝、解毒
- 胆汁の産生と胆汁酸の合成
- 出血を止めるためのたんぱく質の合成 等

このような様々な働きがあり、私達が生きていくにはまず肝臓が健康であることが大切です。

肝炎とは

何らかの原因で肝臓に炎症が起きている状態を言い、原因はウイルス・薬剤・アルコール等があります。日本人の肝炎のうち約80%はウイルス性肝炎だと言われています。

ウイルス性

薬剤性

SOS

自己免疫性

アルコール性

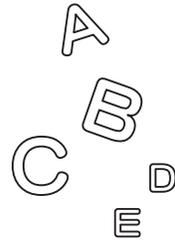
宣言
明るい笑顔
すぐ返事
伝える元気

かちどき薬品 ホームページ
げんき君 健康に関する情報がいっぱい
<http://www.genki1616.co.jp>

かちどき薬品グループ

ウイルス性肝炎を知る

ウイルス性肝炎とは「肝炎ウイルス」によって肝臓に炎症が起こる病気です。



いろいろな型がある

主な肝炎ウイルスには、A型・B型・C型・D型・E型があります。そのうちB型とC型は感染者数が多く、国内最大の感染症と言われています。
(D型とE型の発症は、日本ではほとんどありません。)

急性と慢性がある

【急性肝炎】…… A型・B型に多い……

急速に肝細胞が破壊される。
発熱・全身倦怠感・黄疸(目や皮膚が黄色くなる)等の症状が現れるが、自然経過で治ることが多い。

急性肝炎の発症から8週間以内に、重度の肝機能障害を起こし、脳症に至ることがある。
(劇症肝炎)

【慢性肝炎】…… B型・C型に多い……

ウイルスが体内に潜伏し、長期間にわたって軽度の肝障害が続く。徐々に肝臓が線維化し、肝硬変や肝がんに至ることがある。

B型とC型の特徴

B型

健康な人であれば、ほとんどの場合ウイルスは体から排除されるため、感染しても発症せず治癒します。

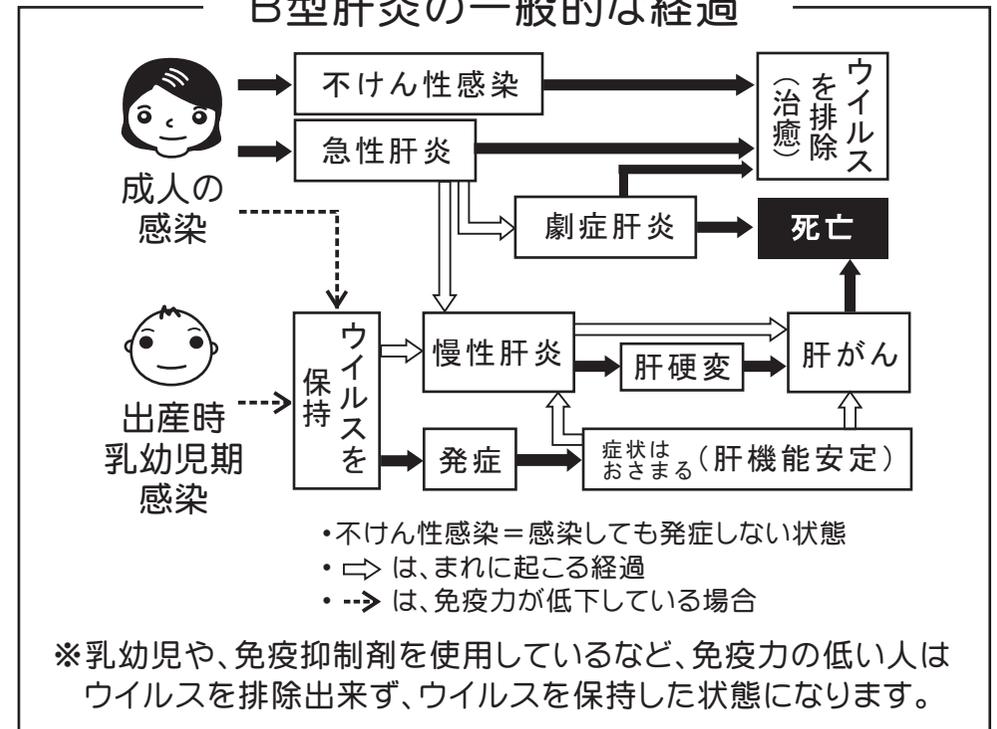
症状

【急性】の場合
全身倦怠感、食欲不振、吐き気、嘔吐、尿の色が濃い、黄疸 等

【慢性】の場合
自覚症状はほとんどない

感染してから1~6ヶ月の潜伏期間後に症状が現れる

B型肝炎の一般的な経過



C型

長期間にわたって肝障害が続きます。徐々に肝臓が線維化して、肝硬変や肝がん等の病気に進行することがあります。

症状

何となく体がだるい、疲れやすい、食欲不振



症状がはっきりせず、見過ごすことが多い

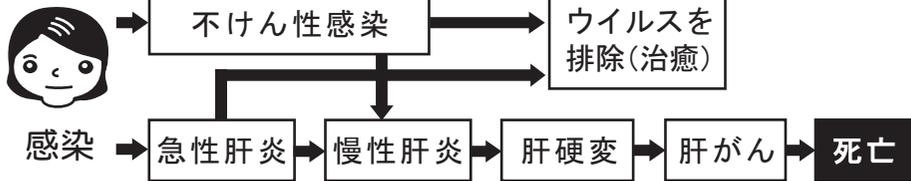
【肝硬変】に進行した場合

しゅしょうこうはん

手掌紅斑（手のひらが赤くなる）
黄疸、むくみ、腹水（お腹が張る）
出血しやすく止まりにくい 等

C型肝炎の一般的な経過

初期は自覚症状がほとんどなく、気付かないまま約20～30年で肝がんへと病気が進みます。（経過は個人差があります。）日本人の肝がんの70～80%はC型ウイルスが原因です。



感染について

主な感染ルート

空気感染はしない
とされている

B型とC型の肝炎ウイルスは、血液や体液を通じて人から人へ感染します。

- 他の人が使用した歯ブラシやカミソリ
- 他の人が使用した注射器(薬物)
- 消毒不十分なピアス・入れ墨の器具
- 血液や体液に接触

感染



- ◎輸血・血液製剤
- ◎臓器移植
- ◎予防接種の注射器
- ◎医療現場での血液付着等

◎母子感染

(◎印…過去に感染例が多くありましたが、現在では予防の対策がとられています。)

感染した母親から出産時に感染する「母子感染」も感染経路の1つです。
(現在では母子感染防止策により、新たな感染はほとんどありません。)

- 歯科治療
- 透析
- 鍼治療

感染を防ぐには

肝炎ウイルスの感染を予防するには、他の人の血液に安易に触れないようにすることが重要です。

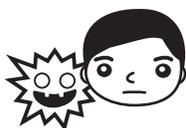


日常生活での注意

-  他の人の血液に触れるときは手袋をする
-  歯ブラシやカミソリの貸し借りをしない
-  口移しで食べ物をあげない（乳幼児等）
-  ピアスの穴をあける時は、適切に消毒された器具で行う



感染の心配がほとんどない行為



肝炎ウイルスに感染している人と

- OK** 握手する
- OK** 肩を組む
- OK** 隣に座る
- OK** 同じ食器を使う
- OK** 一緒に入浴する

感染を予防するワクチン

現在、日本ではB型のみ任意接種(自費)が可能です。
(B型肝炎の母親から出生した赤ちゃんは保険診療の対象です。)

検査・診断

感染の有無は血液検査でわかる

健康診断の肝機能検査でAST(GOT)・ALT(GPT)の数値が高かった人は、ウイルス性肝炎等の可能性があり、早めの再検査が勧められます。



肝臓は「沈黙の臓器」と言われ、異常があっても症状が現れにくく、不調を感じた時にはすでに病状が進んでいることもあります。

ウイルスに感染していても発症していない人もいます。一度は検査を受けましょう。検査は都道府県や市町村で実施している「無料肝炎ウイルス検査」の他、勤務先の健康診断で受けられる場合もあります。

治療

抗ウイルス療法など

肝炎は一人ひとりの症状によって治療法が違うため、専門医とよく相談して治療を受けることが重要です。

ウイルスを排除する注射や、増殖を抑える内服薬、肝臓の炎症を抑える内服薬等が使われ、肝機能を安定させる治療が行われます。

検査の結果、感染していることが判った時は、病気が進行する前に、早めに受診・治療しましょう。

